

## 「開教事業とその必然的要素」

阿 部 現 亮

人類の社會生活に於いては野蠻的なものと文化的なるものとを問はず個々の現象には必ず宗教が其の役を演じておらぬものはない。文化階段の種々相に宗教が關與することによりて深みのある生活をなしてゐる。

政治や經濟の振る舞へる事相は平面的に膨脹を示して行くが立體的に生活の深き根柢を築けることは宗教に俟たねばならない。古來宗教は東洋西洋共に夫々の特徴を示しつゝ諸民族の精神的傾向を明かにしてゐる。又未開人の宗教と文明人の宗教とは形式に於いても内容に於いても自ら異つてゐる。然し宗教とは信仰を決定するものゝ總稱であるとするならば神への憧憬とか奉仕とか又は神への恐怖とかによりて齎す精神過程はたとへ厚薄はあるにせよ文明人野蠻人何れも共通の心理

の存在することを知るであらう。否未開人は神への祈願によりて彼等の生活能力をさへ決してゐる位である。現代の未開人の生活狀態は蠻地旅行者の報告によりて知りうるところであり、地理學や民族學や土俗學などの研究によりて正確なる材料を受けとることが出来る。そして夫等の研究報告を綜合序列することによりて恐く我等文明人の過去も斯くの如き狀態と近似してゐたことを類推しうるのである。即ち有史以前に溯るならば所謂神話時代をもちて夫れは宇宙自然現象や英雄的行動の物語なることを一々實證しうる程に推測が出来る。そして文明人の宗教のみが宗教の特性を帶びるものでなく未開人の宗教と共通の要素を持つことを知り宗教一般の起源を決定することが出来る。

然しこれには相當の議論の存する處であつて歐羅巴では中世期以來のキリスト教文化の城壁に立て籠つてゐるからキリスト教に觸れざる人々や土地へ憐愍的な眼を注ぐのである。異教徒は無宗教の徒と等しく忽せにすべからざる存在であり救済の對象であらねばならぬとした。神の存在は普遍であり妥當であるが故に信者の信仰對象としては最も寛容なる人格であるべき筈である。それに中には排他的な態度をもち異邦人の神を打破せんとする觀念をもつものがある。宗教には民族的な偏見なく地方的な區別なく自己に善なる教は他人にも亦善なる教として人種を超え國境を越えて布教せんとすることこそ信者の人格の表象でもある。前者の如く神への歸順が選民としての自覺より起るものと後者の如く絶對者への感謝が他人の覺醒を促すものとより成り立つ。而して眞の宗教は幾多の道德的教訓を含みつゝ世界の何處へも宣教せらるべき過程をとつてゐる。以つて文化的宗教が全世界に幾多の信者を抱擁する所

#### 開教事業とその必然的要素

以である。又其の信者の一員が身命を賭して使者の役を演じて宗教を弘宣する所以である。宗教は固より保守的なものであるから他の民族の風俗習慣に遇む時にも根柢より色彩を變ずるものでない。たゞ道德的標準の變化にまかせて儀式祭禮の形式を改め其の國情に順應しつゝ其の宗教の本旨を傳へんとするのである。以下宗教弘宣殊に未開地又は文化低き郷土への開教に就きて述べてみようと思ふ。換言すれば低き宗教の地へ高き宗教の入りこむ過程や充分に宗教的覺醒をなさざる人々をして宗教を意識せしむる開教使並に其の任務につきて書かうと思ふ。

開教事業の概念に就きては過去の時代にては云ふまでもなく福音宣傳とか信仰弘通といふ外に何ものもなかつた。而も國勢擴張の軍隊の力と共に行はれたり通商交易の經濟の力と共に行動したことも多かつた。スペインのアメリカに宣教は前者であり我國にキリシタン

の渡來は後者の例である。然し近頃の開教事業は全く變化して教育や醫藥や社會事業などといふ方面が福音を傳へ信仰を勧むるに最も人心を蒐攬し易き手段として價值あるものとせられてきたことであり其の上開教に携はらんとする者が傳道の責任を痛感し進んで異教徒や未開の蠻地に赴かんとする計劃を立つる處あるによる。今や開教事業は面目一新して各文化的宗教は競ふて傳道に奔命してゐるのである。

抑、開教は何れの國土に赴くとも傳道の本義を没却することは許されぬのみならず教團生活の新領域といふ使命の特權をもつ。されば、開教使は幼兒達を集めては現前に宗祖の在す如く物語り、青年達に對して英雄崇拜に借りて感激性に訴へ、懷疑に蠢く若人達には討論研究の理論をとり、老熟の社會人には聖賢の章句や經典の訓言を引き以つて信頼せしむべき素養と技術と根氣とを必要とするのである。開教使は何れの天地に往きても同様に人心の動搖を發見し安心立命の要求を見受け

心境を薰陶すべき人格を持たねばならぬ。さりながら此等の準備と氣概とを持つて發足したりとしても當面の問題として感ずる困難が待ち受けてゐる。言語の不通といふことは通譯者を通して與ふる了解が如何に不充分であり彼此微妙なる親しさ溫かさを傳達することが出來ぬのである。直面せる天地にありては曾て母國に於いて習得せる經驗も適當すべき領域なく未知の世界の苦盃を嘗めるのである。さりながら語るべき言葉を知らぬといふこと、母國の否宗教的な人々に説教すること、何れが容易であるか。大體文明人は神といふ概念と共に善とか罪とか救済とかの宗教の中心概念に馴知してゐるから説教師の言葉に否定的な態度をとるならば現代生活に關與する論理的必然によりて論及せねばならぬし宗教を知識上の討究に終つて情的な感激や信仰の問題に入ることとは困難である。今未開地の人々に言葉の不自由よりして來る困難さはたとへ容易に眞の意味を傳ふことは出來ないとしても説く人と聞く人とが

鬼に角一致する状態に置かれたならば聞き手の心を惹きつけうる本能的な或ものを案出し熱烈なる態度にて語るならば如何なる人々にも感動を與ふことが出来るやう。其處に開教使の熱心と技術を要する所以である。

要するに開教使が母國に於いて原始宗教の講義を聴きし如きものと又哲學的思索に耽けりし理想とは格段の相異であるから開教使は熱心に相手の人々の態度や習慣や日常生活に深き觀察を行ひ就中その宗教的分子につきては充分の注意を拂つて自己の與へんとするものが彼等の生活様式に對して如何に影響するか又反應があるかを研究することによりて之に適應する方法や技術を表現すべく努力しなければならぬのである。

近時各宗教團體は其の派の開教及び傳道につきては其の派所屬の學林又は僧院専門道場に於いて所定の課程を履修せしむることを最上としてゐる。所謂傳道學は學生生活の中に形式と方法とを學習するのである。元より其の宗派の中心教義には毫末も變化は許されない

#### 開教事業とその必然的要素

けれども其の表現方法は之を與へるべき國土狀態性情等によりて應用すべきものである。例へば歐洲人の東洋宣傳殊に印度方面へは音樂的宣傳を用ひること大にして印度人の常に使用せる地方的樂器を豫め習得し其の劇的本能に觸れしむる方法をとつてゐるといふ。かゝる特殊の方法も元より必要であり各國各地方の氣候、政情、經濟などを研究の上に夫々新奇の方法を考案することは適したることである。而して現今此等所定の學課と實演とを卒へし青年僧侶が未知の世界へ押し渡り未開低級の人々と群居生活を共にして彼等に現代の文化を呼吸なさしめんと志す者が次第に増加してきたことは寔に喜ばしい現象である。かゝる開教使の施さんとする構案は如何なるものであるか。教育施設を以つて最上とする。

教育の原理や歴史や其の効果を學習したる人々は其の原則が如何なるものなるかといふことを充分に理解してゐる筈である。そして教育が個人又は民族の生活

に於いて演ずる役割は個人を幸福にし世界を善導する方法である。教育の施されざる社會では何ものをも期待せられず人格の發展など望むべくもなく個人又は種族の未來は如何になり行くか考へ及ばざる處である。

依りて一度教育が施行せらるゝならば、生命の糧となり人格を完成し健在なる自我意識を覺醒し與へられたる外國影響をよく吸収し同化して其の民族自らの特徴を示すに至るのである。又教育の力は迷信や惡習慣を排撃し家庭生活の標準を樹立し女性に知能を培養し物質的淵源の使用を獎勵し産業の發達や商業の過程を指示しうるものである。之を内面的に云へば教育は人間の本能を抑壓し低下せしめ知的に自信を持たしめ共同生活をなしうる公衆精神ともいふべきものを抱ける社會人を養成することが出来る。若し斯くの如き使命を教育に於て果すことが出来るならば開教地に於いて宗教的教育が施さるゝ結果如何なる狀態を作りうるであらうか。時々に変化しゆく開教地に適應してゆく教育施

設は常に一般の幸福を運用すべき博愛心を包含しつゝ、彼等の生活に宗教の原理を漸次透徹せしめ行くであらう。されば施されたる教育は確に彼等を教團の中に呼吸し之を發達せしめんとする雰圍氣を作り出すことに成功すると共に其の宗派に最も親しき情緒を與ふるであらう。更に進みては其の宗教教理を學び之を深く研究せんと努力する様になり宗教の信仰自由といふ立場に於いて人間性の向上を計り尙過去へ落謝せしむべき舊き基礎の上に新らしき宗教的社交生活の精神を樹立せしめることさへ出来るのである。されば未開地に於ける宗教々育は其の民族の生活を向上せしめ同じく無二の信仰確立に成功するといつてよい。然し元より其の仕事が急速に効果を擧ぐるものでないから開教使は恰も不毛の土地を開拓する移住民の如く傳染病に奮闘する醫師の如く社會惡と戰はんとする革命者の如く宗教の效驗を冥福し祈念しつゝ、此の遠大なる理想と不倒の目的に對し開教といふ單調なる退屈なる仕事を鞭撻

して進まねばならぬ。

今や海外開教地の教育施設につきては宗派の大學や専門道場に於いて傳道學上種々の方法を構案せられ又開教使の使命を意識して充分なる經驗を積みつゝ政府の移民事業又は外交政策と相通じて行はれ共同行爲として認められんとしてきた。其の仕事の擴大さるゝと共に到る處に必要性を帶びてくる。然るに往々其の施設は近接の教育機關以外のものと聯絡をとることなく不平均なる配置をなし不經濟なる支出をすらしめてゐる。開教地に於ける教育の確實性は社會的改善を促し宗教的熱誠を以つて人々を知識的たらしむることである。徒らに年々無學の徒が増加し其の子孫も亦眞實の文化を繼承せず宗教を理解しえざる者の輩出を憐まねばならぬ。されば單に教育といふ形に捉らるゝものは開教地に於いては當を得たるものとはいへない。教室に於いて接觸する教師と生徒との親密さが教室以外に於ける人格の接觸とならねばならぬ。單純なる農民の

#### 開教事業とその必然的要素

要求に合致すべき教育の型體がそこに生み出されねばならぬ。此の教育的効果を擧ぐべき最も適切なる方法は如何なるものであらうか。それには日曜學校の制度を應用することを提唱したいと思ふ。

日曜學校の本義として生徒と教師と家庭とが共通の興味をもつべきことに留意して教授課目を一定せんとして研究せられてゐるが其の要項は

#### (1) 生徒の年級別

#### (2) 家庭との共同作業としての父兄會

#### (3) 教師の訓練

であるが此等の諸問題を參考として開教事業の實際問題を考へてみよう。

日曜學校は概ね義務教育を完了する生徒が中學校に上進するとも勞働兒童として徒弟となるとも何れにしても寺院や教會を省みなくなることは誠に遺憾とする。何故日曜學校は小學校の卒業と共に離れてしまふのか。日曜學校は青年會處女會の前提であり理智的に宗教を

要求する端緒であらねばならぬ。又浮動的な感激性や懷疑的宗教より靜的な信仰や神祕的憧憬とならなければならぬ。一度日曜學校に在籍した者は終生の信仰過程の第一階段であらねばならぬし貫通しなければならぬ。依りて當今は之を大きく三分し少年部、青年部、成人部として其連續を計ることゝしてゐる。少年部は四歳より十二歳まで九年間を三組以上に分つ。青年部は十三歳より二十歳まで八年間を三組に分つ。成人部は二十一歳以上を經典研究や信仰座談や社會奉仕や教師養成や種々の組や仕事に分つ。かくして寺院や教會が幼少年のものゝみの集會を日曜學校と名づけずして日曜日全般の集會をかく名づけんとしてゐる。

開教地の傳道も休息日に寺院や布教所へ集合せしむべきであらう。幼少年より老年に至る年齢別の學級を設けて各部より適宜に委員を選出せしめて庶務に當たらしめるがよい。加之週日に於ける幼少年や青年に對しては午後僅少の時間でも宗教中心統合法による知識を

授けられたがよい。

第二項の家庭と共同作業としての父兄會に比較すべき仕事は開教使の家庭訪問である。上述の教育的効果を舉ぐべき最も適切なる方法として醫術的施療や施藥と相携へて救濟事業に奔命することである。開教使が醫藥の術に心得があり鍼灸の道を體得してをるならば健康への友であり宗教への師となる。家庭の葛藤や土地金錢の仲裁は救濟の主と仰めらる。此の意味に於て開教使は單なる學術や能辯の學習のみでなく實務的修練をなしおくことが必要である。國家がその領土内に於いて教育する外に外國に於ける自國民又は外國人の教育は元より或る程度まで制限が加へられておるけれども大體は宗教團體の手に委ねられてある。丁度外國航路への補助の様に相當の保護と財源が與へらるゝならば一層教育的施設を廣くすることが出来るわけである。宗教の名の下に行はるゝ教育は外國官憲を認容するものであり政治的意義を有せざる自由の見解の下に行はる。

又何れの國に於いても古くより殘存する男女不平等の觀念や女性の知識程度の低下せる點は獨り宗教の平等性に出發する教育に於いて平等に行はる。むしろ日常生活に組み込まるゝ作業に知識を向上せしめて女性の覺醒を促進するのは開教使の家庭に及ぼす教育の指導に負はねばならぬ。

以上の教育施設や方法は開教事業として行はるゝ、必然的技術に依る處である。然し傳道の使命は高尚なる精神作業であるから何よりも其の宗教の神髓が開教使の生命に透徹してゐて演ぜらるべきものである。其の人の人格の中に埋没してゐる積極的なpositiveが未知なる不信仰の者へ働きかけて弱者の爲めに智恵と力とを與へんとする仕事である。故に若し開教事業に携はる者が宗教の神髓を知らず事業の性質を會得せずは澁滞を感じ成績を上ぐることは出来ぬ。開教事業の第一目的は人格を通じて世界の人々に働きかけることである。此處に開教使の訓練といふ點が第三項に論ぜらるゝ所以である。實

#### 開教事業とその必然的要素

に開教使の態度は絶對者と共に在ることを示さねばならぬ。外面的意志活動である。雄々しき謙遜や自己抹削の愛情などは自ら其の人格の表現となる。儀式や説教に現はるゝ言説は慈悲と希望の形相であらねばならぬ。かゝる人格への訓練は忍耐と沈着と勤勉とによりて着實なる歩みを進めうるであらう。其の訓練には言語と宗教研究と經濟的要素との難關を突破して行かねばならぬのである。

#### (一) 言語

開教使は其の主たる儀式や説教に於いて爲す宗教的本務は極めて僅少である。むしろ其の要項を效果あらしむべく準備する爲の日常の動作は寺院や教會や説教所や學校に安閑とすることを許さない。或は家庭に或は街頭に勞働に遊戯に相談に調停に總ての感情の機微を穿ちて敏活なる判斷を必要とする。殊に家庭の問題や團體的争鬭には外交官以上の熟慮と斷行とを要する。而も夫等の問題には其の地方の親しき言語を活用してこ



を微妙なる解決と進展とを謀ることが出来るのである。方言に通じ文法をこなし發音を滑かにアクセントを巧みにしてこそ重要な焦點を滑脱せしむるのである。言語の不通より惹起する不始末は概ね發音を聞き解け兼ねるに由る。文字の讀解は母國の學校で學びうるものであるが耳の練習は土著人との接觸によりて始めて可能である。殊に眞理を傳へ感激に訴へんとするが如き際は言語の抑揚によりてのみ爲すことが出来るのである。されど言語の研究に留意する人は未開地の土著語が決して困難なるものでないことに氣づくべく發音構造より分解作用を營めば直ちに其の言葉の構造を耳にて把握することが出来るであらう。夫等の言葉が文明人の夫れの如く一語に數多の意味を含めることなく簡單なる語と共に語數も乏しく直ちに活躍せしむべき基本單語に馴知することが出来るであらう。次に開教地の土著語に一應會話の自由を體得せば逆に此等の開教地へ母國の文化的言語を移植して之に習熟せしむべき努力をし

なければならぬ。之は教育施設によりて行ふべく土著人の文明の空氣を吸收せんとする慾望によりて達成する。彼等當代の人々は永年の舊態より脱するを欲せぬであらうが其の子弟は漸次衝動刺激を受けて新機關を通じて文明に觸知せんとするものである。彼等の第二代に母國語を移植せば宗教の神髓も彼等及び其の子孫の所得となることは困難でなく因りて言語研究は開教使訓練の要目となる。

## (二) 宗教研究

宗教の比較研究といふことが第二の仕事である。開教の行はれんとする未開地にも何等かの形態を有する宗教が存すべく其の宗教の信仰者は容易に他の宗教を抱擁することを拒むであらう。例へば精靈崇拜や庶物崇拜や祖先崇拜は到る處に見受けられる。此等の宗教が其の民族の精神的所産である文學によれば概ね其の發生的起源を知ることが出来る。即ち言語の研究より文學へ進めば神話の傳承的觀念を知り教義の主要點や禮拜儀

式に及べる使用の聖典を知ることが出来るのである。斯くして彼等固有の神話や物語や啓示に共通點や類似點を發見することによりて開教の手段は充分に考察せらるべきである。そして如何なる宗教が彼等に最も歡迎せらるゝ、因素をもつかを比較しなければならぬ。然し此の問題は開教使たらんとする者の母國に於ける豫備教育の根柢に於いて充分研究せらるゝ處ではあるが開教地に於いても常に忽せにすべからざる要目である。

開教につきての要素は同宗派並に他宗教との共同作業又は聯盟といふことである。開教事業と開拓事業と相提携しうる時代には開教使は指導員や補導者たるの位置をもちて寺院や教會中心の教育や社交や娛樂を行ふために開墾地を巡回し唯一の精神慰安者たる役目を持つのである。然し事業漸く組織をうれば共同作業の新らしき要求をもつ様になる。即ち近接地に於ける寺院教會相互の共同作業を意味するものにて殊に建造物の設備につきて彼此の助力を必要とし婦人部少年部の仕事に

#### 開教事業とその必然的要素

利益する處大である。此等の開教地寺院に於いて中央教區制を作るに至れば愈々宗派を確實にすることが出来る。今其の二三の計劃方針につきて述べれば次の如きものである。

(a) 開教地に於ける地理的歴史的特徴及び産物の科學的研先の下に宗派中心地點を研究しその地圖を作製して根據地及び信者の分布狀態を明示すること。

(b) 開教地教區を指定して全教區民の要求に合致しうべき地點に寺院又は教會乃至學院の建造物を建設すべきこと。

(c) 開教區内の衛生交通社交娛樂に關する區民の要求と實現に努力すべき過程表作製のこと。

(d) 開教事業に従事せんと欲する希望者にして眞に獻身的なるやの試験を行ひて採用のこと。

如上の方針は元より開教使自らの區々たる斷案ばかりでなく其の宗派全體が母國に於ける協議決定を必要とすることもあり母國開教使養成機關たる課程の中に

よく準備せられねばならぬことでもある。更に又開教地在住の開教使及び開教地教區の監督統率者は、開教に對する意見と經驗とを充分に持てる人にして該開教地を完全に認識しえたる人格者を選出さるべく加之政府當路と理解しうる人の任命を期待すべきである。

開教監督の人物選定は同様形體の宗派例へば佛教各派の聯盟を行ふ上に必然的要素となる。佛教各派共通の問題として佛教開教に對する政府當路者の認識不足による不許可の問題の生起せる場合とか他の宗教又は人種の感情的偏見より生ずる排斥反對の場合とか特別保護便宜を要求する場合等は佛教各派聯盟を以つて之に當るを可とし其の派の開教監督の爲人と知能熟練に與る處大であるからである。又佛教各派共通の儀式とか社交的問題とかは過剩の建物や等距離の地點を選択することに於いて經費の比例的配分又は平均割當等によりてなしうべきことも監督の平素の交際にある。かく開教監督は自派の統制と共に派外への重鎮であらねばな

らぬ。開教地寺院教會の聯盟的活動は社會學的法則によりて成就するものである。社交心理は相互宗派の爭鬭を和け寛忍の態度を要求し自ら自由平等の精神を抱かしむるに至る。社交形體は開教事業の新領域を生み經濟上の冗費を省き住民の生活慾望を統治し佛教精神による向上心を促進することとなる。

### (三) 經濟問題

開教使が充分に敏活に運動し母國へ詳細に報告しうる成績を舉げんには一切の經濟的支辨に考慮を拂ふことなく専心に之に従事せしめねばならぬ。然し事實は決して行はれてゐないのである。開教の使命が重大にして容易ならざるものなることを是認しつゝも母國に於ける宗團は幾何の豫算を充當せしめてゐるか。篤信の人々によれる特殊の寄附によりて開教地の寺院や教會や教育機關を保持せんとするも常に經濟は不足を告げて窮乏の運命に喘がねばならないのである。況や開教使は孤島に送られたる如く何等物質的援助の及ばざる宗團に

ありては精神不撓の人と雖活動を阻害せらるゝことは當然である。唯健康なる身體の外資本として與へらるゝものなき勞働者の如く加之自己の生命存續よりも重大なる責務を負ふ爲めに倒るゝ能はざる存在となるのである。さればこそ開教使の存在が畢竟唯一の傳道となりうる所以である。自ら經濟を處理しつゝ傳道に務むることは無理な仕事ではあるが又開教の眞劔味を體得し成功せしむる秘訣である。換言すれば、宗教的信念と物質的資料との間には活力素が動搖してゐるのである。大體僧侶には所有觀念を惡魔視して經濟を卑しきものと考へ貧困に甘んずるを徳目の一に數へてゐた。蓋し快樂を斥けて苦痛を求むることが因果律の支配による來世觀によりての掟であつた。法施と財施とは僧侶と俗人との區劃線でもあつた。然し現代は斯る觀點よりする宗教は山岳や僧庵に隔離されたるもので一般に求めらるゝものでない。農夫と共に大地を耕作し商人と共に街頭を馳驅する中に宗教の使命を傳へんとするので

ある。大地にも物資にも貨幣にも宗教的機能を見出し煩鎖な世相にむしろ中心を置いて活動する處に開教の生命が躍動する。故に經濟的問題は開教使の試金石ともなるのである。されば經濟が一度不仕鱈な方法に始めらるゝならば總ての財源を失ひて宗教と貧困とが同義語に使用せらるゝに至るであらう。尤も開教使自らの所得や生計を計る意味ではない。經濟的組織を達成するものは寺院教會の諸般の能率を上げ事業の基礎を置くことが出来るのである。此の組織とは開教使自らが機關の主體であると共に自ら財政經營の任に就くのではない。最も忠實なる信者が選ばれて敏活なる會計事務に當るのである。委員であり世話方である處の人を得ることは開教使の人格と技能によるものであるが最も篤信なる信者を得たならば成功の緒論である。今經濟組織につきての二三原則とも見るべきものを考察してみよう。

(a) 開教使は會計常務を執らざること。

若し開教使が直接金銭出納に携はる時には開教の根本使命に能率を上げることが出来なくなる。機關車が客車を牽引する爲めには常に蒸氣補給をなし機關運轉は機關手の努力を要する。開教使命以外の爲めには適切なる信者の手によりて金融を煩はさねばならぬ。

(b) 信徒會員は義務として會費獻金をなすこと。

開教使の傳ふる教義のためには信徒會員として其の教を信奉する限り彼等に於いても能力に應じて物質的義務をもつ筈である。別して農村僻陬の慰安なき開墾田などの教育や社交の中心は寺院教會の建造物に置かねばならぬ。夫等の一切の關係費用は寺院教會の仕事として其の所屬信徒會員の負擔すべきことは當然である。義務を遂行せざる信徒會員の存することは開教使の怠慢であり努力の不足である。

(c) 教會年度に従へる豫算作製のこと。

各地方の經濟的清算關係に於いて次年度支出の豫算會を開き開教に従へる幾多の仕事の種目を例へば建築

教育社交衛生等に至るまで總て信徒會員によりて負擔すべく豫算を組むのである。

(d) 信徒會員の經濟的義務は能力比例によること。

各人が同額の獻金をすることは合理的でない。全會員をして寺院教會が年々使用すべき必需品や其他の施設の費用は豫算によりて負擔することが當然である。彼等の數と彼等の信仰の程度と彼等の所得とが經濟問題を解決すべき唯一の鍵となる。

(e) 義務金の回收を怠たらざること。

信徒名簿の作製によりて委員が各週又は各月を單位に承諾されたる確實なる納金金額を徵收することを怠たつてはならぬ。一年一度に支拂ふ習慣は廢すべきである。別して開教使の家庭訪問に際して渡さるゝが如きは自ら寺院教會との聯絡を疎縁ならしむる恐れがある。此の爲めに事務室には收支貸借表を週末又は月末に明示し同時に信徒名簿に寄附豫約額を掲げ右方の空間に五十二週の線又は十二ヶ月の線を劃して入金を印する

ことゝする。之れは寺院教會に不忠實なる者のみが不拂多く一目にして收支缺陷の原因を知ることが出来る。

以上は各開教地の寺院教會の單元に於ける經濟的問題であるが開教地教區を設定する場合には中央の監督所在地にありては時々各開教使會議を行ひ諸般の打合せが行はるゝが其の中經濟事情として次の項目を協定すべきである。

(f) 開教地教區設定に關し豫算補給の爲めに財團を設け適切なる充當方針を確立のこと。

(g) 開教使の最低俸給額決定のこと。並に有給の事務員一般の最低給料一定のこと。

以上の經濟的諸關係は各地方に於いて事情を異にするが兎に角開教使の不即不離の問題となる。開教使は何れの計劃にも熟知せねばならぬし常に寺院教會全般の歸趣する處に心すべきであるが就中經濟的關係より發する信徒間の不和は最も留意して未然に防衛せぬと寺院教會の解體を導く致命傷となることもある。故に開

教事業は信徒の努力に俟つて成功するのであるが殊に經濟的支持は信者の手に於いて源泉を作り行く様に爲さしむることが大切である。

以上開教地に於いて施さるべき諸の構案や方法に就きて述べたるが其の効果を上ぐるや否やは全く開教使其の人の人格と手腕に俟つのみである。其の人格には即ち宗教の力が泡和狀態であるならば住民の宗教意識も覺醒せしめ道德生活の根柢を置くことが出来る。其の手腕には強壯なる身體が氣候風土の激變に堪へ物質的缺乏の迫害を凌ぎて不屈不倒の忍耐によりて生る。斯る開教使を得るならば自然的な人工的な複雑なる妨害に勇往邁進し以つて大乘佛教精神の宣布によりて未開地の人々を啓發し宗派の大飛躍となるのである。